

# チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子



発行者：校長 岡田 達也

えがお かがやき がんばる 学校 うえんだん「チーム北川」～



## いよいよ明日が本番です 大きな拍手をお願いします！

18日(水)に学芸会の予行を行いました。本番を想定して行うため、係の5・6年生は幕間の大道具や小道具、バックの絵などの準備も実際の通り行いました。限られた時間の中で、進行を妨げないように、静かにてきぱきと行動していました。さすが高学年です。

学芸会をプログラム通りにスムーズに進行することができるのは、こうした子どもたちに支えられているからです。学芸会当日は、華やかなステージに立つ子どもたちだけではなく、ぜひ学芸会を陰で支える子どもたちの姿にも目を向けていただけたらうれしい限りです。

学芸会本番では、子どもたち一人一人が練習の成果を発揮し、努力することの大切さや、やりとげたあとの充実感を感じてほしいと思います。しかし、本番は緊張して、早口になったり、声が小さくなったりすることがあるかもしれません。そんなときには、ぜひ温かな拍手で応援していただきたいと思います。学校として、次のことを大切に指導してきました。



- ①みんなで考え表現する喜びを味わわせる(創造する喜び)
- ②その過程で、友達と協力することや責任をもって取り組むことの大切さを学ぶ
- ③自分だけではなく友達のがんばりや他学年の発表のよさを認め合う態度を育てる

ぜひ、明日は本番まで担任の指導のもと子どもたちが力を合わせてがんばった「過程」を想像しながら、劇や合奏、合唱をご覧ください。そして、明日は大きな拍手で、子どもたちに勇気を与えていただければと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 「言葉」の大切さ



先日、子どもたちが友達との会話でつかっている「言葉」が、教職員の間で話題になりました。「ばか」「おめえ」「はよお、せえ！」などなど。本校のように小さい

いときから集団がほとんど変わらない学校では、子どもたちの中で相手のイメージや関係性が固定化していきます。その中で互いに慣れていき、普段から何気なくつかっている「言葉」も少しずつ荒くなってしまいます。

あたりまえのことですが、一つの言葉でけんかになることもあれば、仲直りすることもあります。そして、相手を悲しくさせることもあれば、相手を楽しくさせることもあります。言葉で人は傷つき、言葉で人を幸せにさせることも確かです。

また、人の心は言葉でできあがるとも言えます。優しい思いやりのある言葉と、とげとげしく冷たい言葉の中で育つ子どもの心は同じでしょうか。言葉は、心を育てる栄養のようなものです。だからこそ、子どもたちの周りの大人はていねいに豊かな言葉をつかわなければなりません。併せて、子どもたちにその場にあった正しく適切な言葉をつかう指導をしていく必要もあります。

これから機会あるごとに、子どもたちに心が温くなる「ふわふわ言葉」と心を傷つける「チクチク言葉」について考えさせていきたいと思っています。ご家庭でもご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。そのためには、まず私たち大人が自らの言葉を振り返ることが必要なのかもしれませんがね。